

コラム 海外の直通運転

鉄道の直通運転は日本だけではなく、海外でも様々な形で行われている。ここでは、海外の都市で行われている直通運転を紹介し、その特徴などについて考える。

1. 韓国の事例

韓国の鉄道はその歴史的・経済的原因により、日本の影響を強く受けたと言えるであろう。しかし日本とは違い、韓国の鉄道会社はほとんどが公企業であるため、必ずしも日本の鉄道のそれと同じではない。例えば、名前としては一つの路線でも、区間によって運営・管理されている会社が違うため、直通運転が成立する場合がある。これは、既存の路線を延長する形で新規の路線が造られたり、繋がっていなかった二つの路線を繋いだりし、路線の名前を統一したのが原因である。その他に、同じ会社の路線で直通運転を行う場合も多い。そのため、ここでは異なる運営主体の間で行われる直通運転と、同一の運営主体の中で行われている直通運転に分けて説明する。

まず、異なる運営主体の直通運転である。これはまた二つの類型に分けることができ、一般的な意味(異なる運営主体の異なる路線)の直通運転と、同じ路線で区間によって運営主体が違う直通運転がある。これを簡単に表すと次のようである。

- ・首都圏電鉄 1 号線：京元線¹～ソウルメトロ 1 号線～京釜本線²～京仁線³
- ・首都圏電鉄 3 号線：ソウルメトロ 3 号線～一山線
- ・首都圏電鉄 4 号線：ソウルメトロ 4 号線～果川線～安山線

以上の路線はソウルメトロと KORAIL(韓国鉄道公社)との間で行われている直通運転である。その他に、韓国的高速鉄道である KTX は仁川国際空港線～京義本線～京釜線で直通運転を行っているが、これは空港鉄道株

¹京畿道(=ソウル)と元山市との間を連結するという意味で名づけられた路線である。

²京畿道(=ソウル)と釜山市との間を連結するという意味で名づけられた路線である。

³京畿道(=ソウル)と仁川市との間を連結するという意味で名づけられた路線である。

式会社と KORAIL との直通運転である。

同じ路線で区間によって運営主体が違う直通運転の例としては、新論峴駅を基準として路線の運営主体が「ソウル 9 号線運営」と「ソウルメトロ 9 号線運営」(全部会社の名前である)の二つに分離されているソウルメトロ 9 号線や、同じく亭子駅を基準として「新盆唐線株式会社」と「京畿鉄道株式会社」の二つに分離されている新盆唐線がある。

次に、同一の運営主体の路線で行われている直通運転である。韓国の長距離地上路線(京釜本線・京元線など)は全て KORAIL が運営主体であるため、ほとんどの KTX やセマウル号やムグンファ号などの特急・急行列車は直通運転を行っている。その他に、KORAIL が運営している首都圏電鉄京義線と首都圏電鉄中央線との直通運転があるが、これは 2014 年に首都圏電鉄京義・中央線という名前として統合され、一つの路線となった。

2. ヨーロッパの事例

日本と韓国以外に、鉄道環境がよく整っている地域として有名なのは、数多い国々の国境を越えて直通運転が行われているヨーロッパであろう。図 1 から分かるように、ヨーロッパの中で運行されている国際列車は種類が非常に多い。

このような国際列車としてはまずユーロスターがある。ユーロスターはイギリス、フランス、ベルギーの 3 カ国の直通運転を行っていて、ロンドンの St.Pancras 駅からフランスの Lille 駅まで行き、そこからベルギーの Bruxelles-Midi 駅とフランスの Gare du Nord 駅までと分岐する。その他に、フランス、オランダ、ベルギー、ドイツの 4 カ国を結ぶタリスや、フランスの主要都市とベルギー、ルクセンブルク、ドイツ、イタリア、スペインなどを結ぶ TGV、ドイツの主要都市とオーストリア、スイス、オランダ、フランスなどを結ぶ ICE(インターシティエクスプレス)などがある。

その他に、ドイツ国内の直通運転の事例として、Karlsruhe Model がある。これは、ドイツの Karlsruhe 市で、都心部の路面電車路線から都市外郭まで行くのはドイツ鉄道(DB)への乗り換えが必要であったのが、1992 年、路面電車路線とドイツ鉄道との連結線建設により統合運営された、直通運転のモデルである。この直通運転により、沿線地域の経済的価値が上

がり、直通運転となった区間の利用者数が 1992 年のセンサス対比、400% 弱増加した(韓国交通研究院,2009)。

以上のことからわかるように、ヨーロッパの鉄道路線は実に複雑に互いに連結されており、その種類も非常に多様である。現在、EU では鉄道の効率性を高める長期計画である「CAPACITY4RAIL」を立ててあり、鉄道の輸送効率などを高めるのを目指しているが、そのような計画の結果として直通運転もさらに活発になることを期待する。



図 1 INTERRAIL 路線図⁴

⁴ Interrail 「Interrail railway map」
<http://www.interrail.eu/plan-your-trip/interrail-railway-map>

